

おどろが 議会だより

第137号 令和8年1月17日

注目!

届け! 私たちの想い!

中学生が一般質問に挑戦!!...2

「中学生模擬議会」 とは？

小値賀中学校では郷土小値賀について学んだことを基に、自分の将来と小値賀町の未来について真剣に深く前向きに考えていけるようキャリア教育を進めています。1年生で学んだ小値賀学、2年生の職場体験学習、そして3年生で小値賀の未来について考える。その集大成の一つが、議場で執行部を前に一般質問を行う「模擬議会」です。



総合的な遊具施設の
令和9年度完成を
目指します



赤浜公園にも立派な遊具があった

問 本町の高齢化率は令和5年度で52.3%とかなり高い。これを踏まえ、誰もが利用しやすい「健康遊具」の設置が必要ではないか。また高齢者が休憩できる椅子やベンチも設置してはどうか。

答 子供からお年寄りまで、生涯にわたって心身の健康を保持・増進するために、施設を充実させ、運動に触れ合う機会をつくる必要がある。

問 高い高齢化率の本町では、健康維持増進も重要な課題だ。誰もが利用できる健康遊具やベンチの設置も必要だと考えている。

答 総合的な遊具施設の協議の中で、全年齢型健康遊具や、子供が年齢に応じて遊べる遊具を検討している。ただ、安全性の確保や設置費用、維持管理費、設置場所の選定など多くの課題もある。

公園は子供から高齢者まで幅広い世代交流ができる場であり、地域コミュニティの活性化に繋がる。町民の意見を伺いながら、安全で快適な公園環境の整備に努めていく。

問 令和9年度までに遊具の設置など計画しているが、安全面の課題がある中、どんな対策を考え、どんな遊具を設置する予定か。

答 安全性については、国の基準に照らし合わせ、毎年、児童公園の点検を行っている。遊具などの種類については、町民の意見を聞き、望みに添えるよう取り組む。
(福祉事務所長)

具体的な遊具設置の計画は



小値賀ならではの遊具設置の予定は

問 小値賀ならではの、自然を活かしたアスレチック遊具を設置する予定は。

答 耐久性、安全面に課題はあるが、実際に遊ぶ年代の皆さんの意見を踏まえ検討する必要がある。
(福祉事務所長)



11/26
開催

小値賀中学校 3年生 中学生模擬議会

1 班 公園で、みんなの心と身体に幸せを！

小崎
紗理奈
議員

野澤
玖太
議員

原
悠斗
議員



現在、本町には多くの公園があるが、利用者の少ない公園もある。先輩もこの模擬議会の場で質問しているが、私たちも公園の現状を改善すべきだと考えている。

子供の運動不足は公園の遊具減少が一因では

問 近年、子供の運動不足が問題となっているが、その背景として公園の遊具の減少があると思う。

答 本町でも赤浜・前浜公園の遊具が撤去され、現在、遊具が充実している公園は西町公園と浦町公園だけだ。そのため運動する機会が減り、家にいる時間が増えたのではないかと。

また、本町の子供だけではなく、観光客が家族で遊べる遊具がなく、休憩できるスペースも少ないことは問題だと思う。町長の考えを伺う。

答 現在、本町で遊具施設のある児童公園は西町、浦町、柳及び斑の4か所。以前は8か所あったが、老朽化などにより撤去縮小してきた。その結果、子供たちが安心して遊べる場が限られていることは、町としても課題だと考えている。

遊具の設置により学力向上が期待される

問 文部科学省の体力・運動能力の調査結果によると、週に一日以上運動すると答えた人の割合は減少傾向にある。そのため、前浜・赤浜公園にも遊具を設置することで、運動する場や、外へ出るきっかけ作りの場として利用の増加が見込まれると思う。

また、青山学院大学の論文によると、運動と学力には正の相関があると挙げられている。遊具の設置には場所や費用を要するが、外で遊び運動する機会が増えれば、学力の向上にも繋がると思う。

赤浜・前浜公園などに遊具を設置し、有効活用するべきでは。

答 総合計画や子ども子育て支援事業計画を作る中で、多くの町民の意見にも、公園や雨の日も遊べる場所の整備、全年齢の集いの場として、総合的な遊具施設の整備を望む声がある。

どの公園をどう整備していくか協議検討している段階だ。その中で、赤浜・前浜公園も候補になっている。

2 班 大島分校の現在は小値賀の未来だ！

神崎 楓
議員

小崎 里緒奈
議員

小崎 楓花
議員



北松西校は、本町の教育や将来を支える大切な存在だ。小中高一貫教育はもちろん、小値賀の子供たちにとっては、進学・学びの場として欠かせない。
本町の人口は年々減少しており、北松西校の生徒数も現在19名と減少する一方だ。このままでは北松西校は廃校になる可能性がある。

高校存続のための取り組みは

北松西校存続のために、現在どのような取り組みをしているのか。
また総合計画では一学年15名とされているが、15名に届いていないのが現状だ。これをどう受け止めているか。

北松西高校は、小中高一貫教育により幼い頃から地域と関わりながら、島の中で学び成長できる環境を整えていく上で、非常に重要な存在だ。

北松西校がなくなれば、将来の本町を支える人材が減るだけでなく、地域経済にも大きな影響が生じる。
総合計画の一学年15名という目標には現状達していないが、子育て世代の移住定住施策や、子供たちが健康やかに学び、育つ環境づくりの両面から総合的に進める必要がある。

離島留学希望者増の理由は

離島留学の取り組みにより、中学校にも留学生が来ていて私たちも嬉しい。北松西校では、インスタグラムを活用したり、東京・大阪での留学説明会に参加するなどのアピールをしていると聞いた。

この取り組みを続けていけば、北松西校の存在を知らせることができ、入学者を増やすことができると思う。今年は留学希望者が増えているようだが、その理由は。

北松西高校の「少人数のきめ細かな授業」、「豊かな自然環境の中の学び」、「地域のサポート」など、留学の魅力を広く伝える取組が全国に伝わり始め、関心が高まっていると感じている。



「ちかまる寮」の外壁塗装には寮生も関わった

児童1名の大島分校は今後どうなるのか

小値賀小学校大島分校では、地域の人の温かさや、他学年との接し方について楽しく学んだ。

現在、大島分校では児童1名、先生2名という状態だ。このままでは2年後には児童がいなくなる。その場合、大島分校はどうなるのか。

大島分校は地域との結びつきが深く、これまで多くの子供たちを育ててきた大切な場所だ。しかし、現状では閉校となる可能性が高い。

閉校の場合、分校の備品は小値賀小学校に戻すのか。

使われていた備品は小値賀小学校に戻すなど、適切に利用する。

閉校後の活用方法は考えているか。母校である大島分校が、大島の人や帰省した方が活用できる存在であってほしい。

校舎や遊具、運動場などの今後の活用方法については、地元の意見を聞きながら検討していく。
大島分校の廃校を避けるためには、何よりも児童確保が大きな課題だ。その解決の一つの方法として、孫留学制度がある。

この制度を大島地区の皆さんに周知していきたい。



大島には改修した体育館があるが、閉校しても避難所として活用できると聞いた。その場合、体育館の管理は誰がするのか。

大島の体育館は、台風などの避難所として指定されており、今現在も避難所としての機能を有している。

今後の管理の方法については、具体的には決まっていないうが、改修したばかりの体育館を地域の方と一緒に大切にしながら、体制を整えていく必要がある。(教育次長)

留学生で生徒数を確保する考えだが、寮の定員が満員になればそれ以上の受け入れは難しい。今後の対応は。

ちかまる寮とは別に、セミナーハウスを寮に改築する予定だ。また、孫留学制度のほか、親子で一緒に来ていただくような制度も検討している。まずは、ふるさと留学の寮の定員を満たしたい。(教育次長)

留学生が増えると思うが、寮の受け入れ体制の準備は順調か。

準備はしっかり進めている。男子寮になるセミナーハウスの工事業者も決まった。一方、受け入れ体制は整えているところだ。(教育次長)

子どもたちは町の未来そのもの。これからも全力で教育行政に取り組みます



大島は島民全員がPTA会員となり島全体で子供の成長を支えている



3 歴史民俗資料館の知名度を上げよう！

中野希
議員

橋本智大
議員

三浦珠里
議員



歴史民俗資料館は、本町の歴史を知ることができる場だ。小田家の住まいや旧野首教会の信徒の品々、遺跡から発掘された石器など、実際に見て学ぶことができ本当に貴重な町の財産で大きな魅力だ。

令和6年度は1461名が資料館を訪れたと聞いた。9月に笛吹で行った約60名への街頭インタビューの結果、様々な現状把握ができた。

資料館が観光の目玉としてのイメージがないように感じる。町の歴史の魅力を語る資料館を今以上に活用し、観光客の利用増のためにも質問する。

資料館でイベント開催を

資料館でイベントを行うことで身近に歴史を知る機会になり、観光客だけでなく町民の方の興味関心が得られると思う。アンケート回答44名中、イベントがあれば行く人は26名と半数を超えており、イベントの効果に分かる。

資料館から本町の歴史を発信し、住んでよかった、また行きたい、そんな気持ちを引き出せたらと思う。本町は、資料館のあり方を今後どうしていくのか。利用者を増やすような計画はあるか。



平成元年開館以来多くの方に本町の歴史文化の魅力を伝えてきた

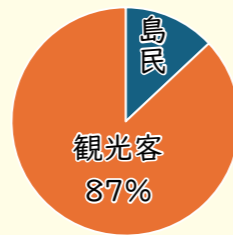
唐見崎空襲の記憶を伝えたい

戦時中に本町で起きた被害として、唐見崎空襲がある。

戦後80年の今、長崎新聞でも取り上げられたこの空襲の痕跡の残る品々や、実際に空襲に関わった場所についての資料を資料館に置くことはできないか。



資料館でイベントがあれば参加するか (回答 44人)



資料館来館者の島内外比率

今後、戦争体験を聞くことが難しくなるなか、本町で実際に起きたことを残し、資料館を通じて人の命・平和について学んでほしい。

本町における戦争被害の記録は、歴史の中でも非常に貴重で、決して忘れることができないものだ。

しかし、指摘のとおり、戦争を体験した方々は年々減っている。今後はその大切な記憶を、形として残して行きたい。

教育委員会も今後、地域の方々と連携し、戦時中の資料や証言などを整理・保存し、終戦記念日に合わせ、資料館で紹介できるように検討する。

資料館保存の取組は

街頭インタビューでは、婦人会の方が資料館の清掃をしていることを知った。資料館は町の税金で支えられ、守ろうと行動する方々の善意により成り立っており、当たり前に行っていることではない。

資料館などの大切な建造物を守るため、どのような取組を考えているか。

現在、資料館の維持管理は、管理人一人が日々の清掃や対応を行っている。年に一度、婦人会のご協力により、全体の掃除をして頂いている。

皆さんのように調べ考え、未来に伝えようとする姿勢が、文化を守る力となる。これからも町の歴史や文化、地域の誇りを次の世代に繋げていけるよう、真剣に取り組む。

戦争資料の常設を

本町の空襲の資料を資料館の一部に常設できないか。

戦争の悲惨さや命、平和の尊さを伝える企画展を計画する。一年中の展示は難しいが、毎年、期間限定企画で対応する。(教育次長)

誰もが資料を見れるように

資料館に関する文書や新聞は図書館で保存されているが、写真や映像などはどう保存しているか。それを誰もが見られるように公開することは考えているか。

重要書類などは適切に保管している。写真や映像などの保存は、技術を要する部分と、保管環境を整えていく課題はあるが必要だ。公開方法

パンフレットで集客を

ターミナルに資料館のパンフレットを置いては。観光客が、小値賀について深く知ることに繋がるパンフレットを手取ることによる、小値賀への興味を深めるのではないか。

そして、このパンフレットにイベント情報があれば、さらに効果が高まると思う。

観光客の方に、パンフレットなどで情報を効果的に伝えられるよう努力する。(教育次長)

資料館の魅力が多くの人に伝わるよう資料館でのイベント開催を検討します



歴史は町民が支えている



(教育次長)

4 班 総合計画の認知を広げ住民参加の拡大を

岩坪沙樹
議員

江川ろこ
議員

濱田乃愛
議員



本町には、住む人が満足感を持ちながら住み続けられるまちを目指すための、第5次小値賀町総合計画がある。これは、未来会議やアンケートなどを通して町民の意見や思いを反映して作られた計画である。

海ごみ問題への意識高揚を

総合計画の中に海岸漂着物に対する取り組みがあるが、今年の夏に白浜海水浴場に行った時、海ごみが大量に流れついており観光客が泳がずに帰る姿を目にして悲しかった。

過去の模擬議会での町長の答弁には、海ごみを減らす取組として、小中高一貫の海浜清掃で約3トン、町内一斉海岸清掃と、りっぱカンパニーなどで約29トン、業者による清掃で約21トン回収と挙げていた。

課題として、人口減少や高齢化が進むなか、今後は業者による事業の拡大や、ボランティア活動への支援、町民の意識を高めていくとあった。

本町は、町民の意識を高めるため、今後海ごみに対して、どのように取り組んでいくのか。

本町の海岸漂着物への取組として、一斉海岸清掃や、国の補助金を活用した業者による回収、小中高合同海岸清掃、りっぱカンパニーやボランティアによる回収等がある。



海ごみで埋まる白浜海水浴場

しかし処理が追いつかず、きれいな海岸が漂着物でいっぱい状態も多く見られる。

町民一人一人の意識を高めるための新たな取組として、海洋プラスチックごみ研究の第一人者・磯部教授（九州大）による海ごみに関する講演会や、赤浜・柿の浜・白浜に「海ごみ拾い箱」を設置し、少しでも漂着物を拾える環境づくりをしている。

また、定点カメラで漂着ごみの変動を調査し、回収の効率化やコストの削減を目指し、その成果をホームページに公開して啓発を行う。きれいな海を見に来た人が帰ることがないように努める。



総合計画概要版

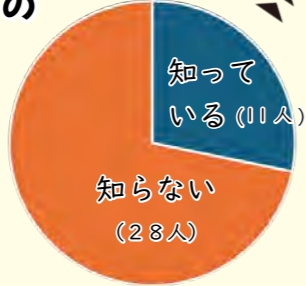
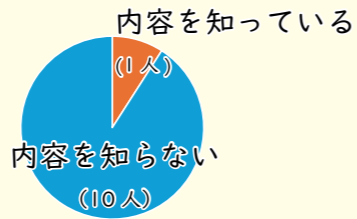


総合計画のページ

認知度アップが必要では

総合計画に示されている目標は、町民の意見をもとに作られたものだからこそ、行政だけが頑張るものではなく、町民一人一人も行動することが大切だ。

そこで、この総合計画がどの程度町民に知られているかアンケート調査を実施した。その結果、全体的に認知度が低いことがわかった。認知度を上げる対策が必要では。



総合計画を知っているか
(中学2・3年生+保護者)

事業の進捗状況の見える化を検討し
住民参加の機会を
充実させます



学校や地域と連携し、身近なテーマである住まいや交通、医療、観光などを通じて総合計画に参加する機会を充実させる。計画を自分ごととして考えやすくなるような取組を進める。

事業の進捗状況の発信を

総合計画の取組を町民にわかりやすくするために、町のSNSやホームページなどで現在進行中の事業や完了した事業を掲載するといったと思う。

そうすることで、町民が日常の中で町の変化に気づき、自分ごととして総合計画を実行するきっかけになるのではないかと。

私たち自身も、これを通して小値賀のことをもっと知り、大切にしていきたい。

取組の見える化によって、町の事業の進捗状況をわかりやすく伝えることは、計画実施にあたりとても重要なことだ。

今後、ホームページなどを使い事業の進捗を定期的に発信し、取組が見える形にすることを検討していく。



学校への展開の予定は

中高校生などの若い世代に総合計画を知ってもらうために、学校で取組を展開する予定はあるか。

学校とも連携していきたいが、学校や若者に限定せず子育て世代、農業・漁業者など幅広く展開していく。

最も注力している戦略は

総合計画には戦略の柱があるが、その中で最も力を入れていきたい分野はあるか。

全分野力を抜くことはできないので、手を抜かず全力で取り組んでいきたい。

(未来創造課長)



(未来創造課長)

定例十二月会議ッ!

令和7年12月5日～8日まで



ここから動画が見られます



令和八年元旦

このえまちはんだ 大分県九重町飯田地区の皆さんが議会傍聴に

令和八年元旦 7時32分 番岳から撮影

謹んで新春のお慶びを申し上げます

輝かしい新春を迎え、町民の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、長引く世界情勢の不安や円安による物価高騰の中にあつて、町民の皆様にとりましても厳しい一年となりました。そのような中、来年度末には町民の皆様の生活にとって重要な「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する法律」が期限を迎えます。

昨年におきましては、法律の延長及び拡充に向け、あらゆる方面へ陳情活動を行いました。本年もなお一層、その実現に向けて尽力してまいります。

また、近年急激に進行している物価高騰に対する財源確保や、少子化に伴う学校運営等に関しましても、重要な課題と認識しております。

私たちはあらゆる方面から対策を講じ、町民の皆様が安心して暮らせるよう努めてまいりる所存です。

町民の皆様におかれましては、昨年と同様、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

小値賀町議会
議長 宮崎良保



一般質問は5人の議員が登壇！ 模擬公聴会では多くの意見が！

大分県九重町から 本町の議会視察に！

12月会議初日は、町長による行政報告の後、一般質問では今田光弘議員、小辻隆治郎議員が登壇した（14ページ）。

また、この日は大分県九重町飯田地区の「住民参画の町作りを考える会」の皆さんが議会の視察に訪れた。本町の一般質問後の模擬公聴会（※1）に関心があるとのこと、今田議員、小辻議員の一般質問では、飯田地区の皆さんからも様々なご意見を頂いた。

議案7件は 全て賛成多数で可決

最終日は、森岡正雄議員、橋本武士議員、立石光助議員の一般質問の後（18ページ）、条例改正に関する議案3件、補正予算に関する議案4件が審議され、全会一致で可決された。

九重町の皆さんと 意見交換会を開催！

12月6日（土）に九重町飯田地区の皆さんと意見交換会を行った。人口減や少子高齢化など、同じ問題を抱える自治体同士、非常に活発な意見が交わされた。

本町の議会に関心を持って頂いた事に喜びを感じつつ、これからも町民の意見に耳を傾ける議会でなくてはならないと決意を新たにしました。



意見交換会の様子

※1 模擬公聴会：議員の一般質問の後、傍聴に訪れた町民に意見を求めるもの。町民の意見を多く聞くために取り入れられた。



本土と隠岐諸島と繋ぐ「フェリーおき」、他に高速船や飛行機もある

総務文教厚生常任委員会

海士町へゆく！の巻 あまちょう

島根県の海士町は、隠岐諸島に属する人口2309人（11月1日現在）の離島。大人の島留学や地域おこし協力隊などを活用した移住促進策に力を入れており、農林水産業や観光業が主な産業基盤となっている。島唯一の高校は存続危機の状態にあったが、離島留学生の積極的な受け入れと地盤強化により、今や全校生徒151名となり存続危機を脱した。

まるで双子のような小値賀と海士町
どうしてここまで差がついたのか？

海士町シヨック！① 大人の島留学！

20代の若者に限定した移住制度で、3カ月、6カ月、1年の3つのコースがあり、『移住』というより『滞在』を売りにし、『一度来てみませんか』と敷居を極力下げた呼び込み方をしている。

町が留学生と業務委託契約を結んで、月額18万7千円を支払っており、住宅は空き家をリフォームしたシェアハウスが主で、家賃や光熱費は掛からない。給料が丸々可処分所得になるのは若者にとっては最大の魅力だろう。

現在、年間200人以上が留学生として短期移住し、内1割ほどが島に残ると言う。

どこに行っても若い留学生がおり、若者の存在が島の活性化に繋がっている事に疑いの余地はない。

彼らが海士町で暮らすことに喜びを感じているのは、何よりも必要とされているからであろう。

それが仕事へのモチベーションとなり、そのモチベーションから生み出されたアイデアが海士町の発展、魅力へと繋がっている。

彼らの仕事は1つに限定しておらず、『海士町復業協同組合』により様々な仕事が紹介され、その中から自由に選択する事が可能だ。

例えば、メインの仕事をこなしながら、空いた時間でスーパーの品出しやガソリンスタンドを手伝ったりもできる。

選択肢には農業や漁業などもあり、非常に幅が広い。仕事の自由度の高さが、若者の琴線に触れているのだろう。



新築の海士町役場を訪れた

私達を案内してくれた観光協会のスタッフ（留学生）に、以前関東で看護師の仕事をしていたという女性がいた。

大変海士町を気に入っており、留学期間が終わった後は海士町の病院で看護師として働きたいと言う。

不足する人材確保に大人の島留学が一役買ったのだ。まさに人材確保の新しい形と言えよう。

これからますます人口減が見込まれる本町においては、現在取り組んでいる移住政策はそのままで、将来的に短期移住を導入する事で、総合計画にある人口目標の達成を目指すべきと考える。



1階のフリースペース、多くの留学生が

意識を変えるのはまず議員と執行部！

その熱意は必ず町民に伝わり、町全体が変わる！！

海士町シヨック！② SNS発信力！

SNSの発信がもたらす知名度拡大、魅力発信、人材不足解消には目を見張るものがある。こうした発信も留学生がしているという。

特に、大人の島留学の年間の問い合わせ件数は2千件を超えるというのだから驚きだ。内1千人がリモート説明会に参加、6〜7割が最終的に応募している。

定期的に行われているリモート面談の対応も留学生が行っている。自らも歩んだ道ゆえ、悩みや不安も理解があり、相談者にとってはこの上ない相談相手と言えるだろう。

また海士町医療・介護プロジェクトでは、SNSでの看護師、介護士の募集で令和6年度に11人が島に渡って来たという。発信の仕事次第で人材確保は可能だという証左である。

海士町シヨック！③ 留学生100人！

海士町唯一の高校である隠岐島前高校魅力化プロジェクトは、15歳人口の激減による高校廃校の危機感から2008年に始まったと言う。

現在全校生徒数は151人で、3分の2が島外からの留学生、3分の1が地元の子供となっており、普通科の倍率は日本トップクラスとの事だ。

公営塾である隠岐の國学習センターでは、多数の大人の島留学生を配置し、きめ細やかなサポートを提供しており、生徒や保護者の信頼も厚い。

学校と連携しながら生徒一人一人に寄り添う居場所としての役割りを果たし、学校の授業では実現し難い多様な学びの機会を提供している。

海士町シヨック！④ 予算が2.5倍…

人口規模、立地条件、合併問題、産業、インフラ、その他直面している課題など、小値賀町と瓜二つのような存在の海士町。しかしながら、一般会計の予算規模は本町の2.5倍の100億円だ。

また、数多くの自治体が人口減少に頭を抱える中、令和7年度は人口増になると言う。この差を生んだのは間違いなく、合併問題以降の政治の差であろう。

本町の今までのやり方では発展は非常に困難だ。早急に、執行部、町職員、そして我々議員も含めた意識改革が必要と考える。その意識改革はやがて町民に伝わり、町全体の意識が変わるはずだ。

その第一歩として、執行部や町職員に海士町に視察に行く事を強く勧める。是非、現場でその熱量を感じて頂き、町政や業務に存分に生かして頂きたい。

持続可能な町内イベントのあり方について



問 町レクの開催時期にも少し配慮が必要ではなかったか。

答 ピース文化祭の日程を優先したためにその日にせざるを得なかった。来年は10月の第4週を考えている。

問 人口減少を踏まえると、町レクにまずはこども園の運動会を含め、次のステップでは小学校を、最終的には中高、大人も含めたオール小値賀町のレクリエーション大会という流れはいかがか。

答 合同にすると一定時間がかかるため、特に小学校低学年には心身ともに負担が大きくなることなどが懸念される。将来的な課題としては認識している。

町民が疲弊している！ 無理のないイベントに！

今年「ながさきピース文化祭2025」関連イベントや6年ぶりの町民レクリエーション大会を始め、講演会や行事などが盛沢山な秋だった。イベントなどが続くと町に活気が出る一方で、疲れたという声も聞こえた。

このまま今までと同じようにイベントなどを続けると町民全体の負担が大きくなり、疲弊し苦痛となってしまつては本末転倒だ。

質の向上で満足度のアップを

問 音響、照明、設備などの質を向上させて町民の満足度を高める工夫も必要では。

答 音響施設など十分な機能を有していないところもある。施設の更新時期も踏まえ、参加者の意見や評価をていねいに把握し、内容の精査やプログラムの改善を行うことで、より魅力的な行事となるよう取り組んでいきたい。

問 特にピアノの音が気になった。古くてもう限界が来ているようだが。

答 ピアノが古いことはわかっていたが、限界を迎えているという認識は持っていなかった。

当面、総合体育館のピアノと入れ替え、助成金事業などを活用して購入することも検討していきたい。

もつと効率的にできないか

問 開催目的を整理して数や規模を見直しては。

答 行事やイベントは地域のつながりを育む大切な取り組みだが、町民の皆さんの負担が大きくなり過ぎれば本来の価値が損なわれてしまう。イベントの位置づけや効果を整理し、優先度を明確にして「続けるべき」「縮小・再構築を検討すべき」「廃止すべき」行事を見極め、無理のない範囲で「選択と集中」を進めていきたい。

問 イベント開催の会場や時期など効率的な運営の工夫の検討を。

答 公共施設の多くが更新の検討が必要な時期に来ている。施設の適正配置や集約などを検討し、開催時期の調整や複数行事の連携などによる効率的なイベント運営を目指していきたい。

役割分担と連携で負担を軽く

問 役場職員も含め、各種民間団体や自治会、各学校など組織は違うが皆さん小値賀町民だ。うまく役割を分担したり連携したりすることが必要ではないか。

答 企画段階から町民・団体と連携することで負担を分かち合い、町民自らが主体的に参加できる仕組みづくりが必要だと考えている。

情報の共有や連携調整機能の強化に努め、町民の満足度の向上と役場職員の負担軽減が両立できる体制づくりを目指していきたい。

問 文化祭のフィナーレイベントの演奏が盛り上がったように、町外の大学などの連携も進めてほしい。

答 来ていただくだけでなく、こちらから出向いて演奏するなど、これからも連携を図っていきたい。

【質問を終えて】

この秋は息つく間もないほどイベントが盛沢山でした。町レクも久々で大いに盛り上がった半面、参加者が少なかつたようにも感じました。また自分も含めて高齢化が進み、町民の皆さんだけでなく、催す側のスタッフや役場職員からも「疲れた」という声を多く聞きました。

この先人口は減り、財政も厳しくなります。自分たちが楽しんで自分たちが満足できるイベント、地に足のついた持続可能なイベントを皆さん一緒に考えていきましょう。

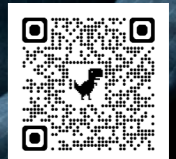
模擬公聴会 私にも言わせて！

● イベントは主催者が楽しむことが基本。苦しくなったら続かない。

● センターは立地は最適だが、音響やピアノには不満を感じているので改善を。



いまだ みつひろ
今田 光弘議員



※ここから動画が見られます！

北松西高校存続と町の活性化について

留学生を積極的に受け入れ 小値賀を盛り上げる！



行政の組織力向上の面や町づくりの長期的な観点から、全庁的に目指すものと考えている。
(教育長)

問 今後中学生の数も減っていく中で、「ちかまる寮」を高校生限定にしてはどうか。
答 高校生限定で募集をかけたこともあるが応募が少なかった。
高校生的の方が対応しやすいというのとは感覚的には分かりますが、本町の教育の柱である小中高12年間の一貫教育との整合性が課題であり、今後議論が必要だと思っている。
(教育長)

先日、常任委員会にて島根県隠岐諸島にある海士町あまちように視察を行った。
ここでは全国から集まった20歳代の若者が町内の200か所余の事業所で働き、町は活気を帯びていた。
また町内には近隣3町村唯一の高校である県立隠岐島前高校おきじまぜんがあり、一時は生徒数が少なく存続が危うい状況にあったものの現在は150名余と増えている。

公営塾導入で北松西高校魅力UP!
問 先月11月8日に行われた「教育と地域が輝く未来」講演会では、公営塾のメリットに触れられていた。本町でも導入する予定か。
答 本町では現在、町教委が学習場所を確保して、地域おこし協力隊員に自主学習の場の運営をしていただいている。
また、子供たちの「学びの循環」になると考え、本町出身の大学生に夏休みの宿題を見てもらう学習教室なども考えている。
今は公営塾については考えていないが、ふるさと留学生の受入状況、生徒や保護者のニーズなどを踏まえ、今後は各学校とも協議しながら判断していきたい。
(町長)

一学年15名の見通しは
問 ふるさと留学生を含め一学年何名とする計画か。
答 現在北松西高校は三学年合わせて19名で、学年平均10名を切っているが県から何か指示はないのか。
答 ふるさと留学事業における「入寮型」では、中学生から高校生まで各学年2名を目標としており、「孫留学」も

町の活性化のため全庁一丸で!
問 公営塾設立により島前高校の魅力化は成功した。高校は存続し、さらにその成功が海士町の活気を最大限に引き出し、町づくりに大いに貢献した。
答 このように高校の魅力化による北松西高校の存続は、教育委員会だけでなく町長部局も共に取り組むべき課題ではないか。
答 海士町における高校魅力化の取組については、地域全体で危機感を共有し、行政と住民、そして高校が一体となって改革を進めた事例であると認識している。
特に公営塾の設立を契機とした学力向上や教育環境の充実を図ることで、高校の存続だけでなく、移住・定住施策や地域振興にも波及した点は注目すべき成果だと思ふ。
高校や地域と十分に連携しながら役場全体で横断的に課題を共有し、実施可能な取組を積極的に進めていきたい。
(町長)



※ここから動画が見られます！

こつじ りゅうじろう
小辻 隆治郎議員

来年度から始まる。
留学生も含めた生徒数は、県の指針である一学年10人以上が目標だ。県からの指示は特になく、地域として留学事業に取り組んでいる本町はむしろ評価されている。
(教育長)

問 町の総合計画では一学年15名が目標だが。
答 15名というのはふるさと留学事業だけの目標ではない

【質問を終えて】
今回視察した島根県海士町は、本町と同じ離島ながらすごいと思いました。関心した施策の一つである隠岐島前高校魅力化策により17年前の危機的状況を抜け出し、今や150名余りの生徒が通っています。
その施策を実行したのは、当時の町長や幹部職員に高校存続が町の命運を握るとの熱い思いがあったからです。本町の留学生も次年度から増加します。熱意ある民間の人が積極的だからです。町部局、教委、町民の熱い思いに期待します。

模擬公聴会 私にも言わせて!
● 公営塾を作るのなら、費用はかかっても島前高校を抜いたNo.1を目指してほしい。
● 視察研修で勉強することは大事なことで、得られた学びを町づくりに生かしてほしい。

若者の短期移住制度の導入について

総合計画は夢物語！？

目標達成に全力を尽くせ！

海士町が尽力している施策の一つに『大人の島留学』がある。20代の若者に限定した短期移住制度で、年間200人以上が留学生として滞在し、内1割ほどが島に残る。これからはますます人口減が見込まれる本町においては、現在取組んでいる移住者施策はそのままだに、新たに短期移住制度を導入することで、第5次総合計画にある人口目標の達成を目指すべきだ。

総合計画の人口目標は早くも暗雲が漂う…

現状の移住者施策で、総合計画にある人口目標の達成や、深刻な人材不足を解消できるか。

本町は人口減少の進行と、それに伴う地域活力の低下が大きな課題となっている。特に第5次総合計画に掲げている子供人口の各学年15人という目標達成には大きな政

策展開が必要だ。これまで住宅支援や子育て施策の充実で一定の成果は得られてはいるものの、さらなる人口の増加や関係人口の創出、新たな人材確保につながる追加的な仕組みを導入する必要があると考えている。

第5次総合計画の人口推計について伺う。

国勢調査で示される人口はおちか新聞に掲載される住民

総合計画には各学年15人が目標とあるが、教育長が度々発言している留学生各学年2人では達成には程遠い。教育長の意図は現体制での目標だと受け止めており、現時点ではそれで良いとは思っている。2人はあくまでも通過点として捉え、もう少し上を目指すべきではないか。

現在の出生数や転入の動向を踏まえれば、これまで以上に多様な人の流れを作る政策展開が必要であると考えている。

海士町の20代の若者に限定した短期移住制度は、年間200人以上が留学生として滞在し、その内1割ほどが島に残り、令和7年度は何と人口増となるそうだ。中には不足する人材の有資格者もおり、まさに人材確保の新しい形と言える。留学生の仕事は副業協同組合という組織が斡旋しており

短期移住で人口増加、人材不足解消を目指せ！

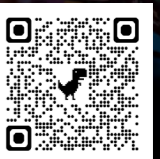
以上のことから、今の施策では人口目標の達成は全く現実的ではなく、ほぼ不可能と言っていると思うが。

自然減は止められないが、移住者を増やす取組で人口目標の達成を目指す。

留学生各学年2人は通過点であるべき！

直近3年の年間出生数は平均8人だが、学校の先生のお子さんも多い。

これから動画が見られます！



もりおか せいゆう
森岡 正雄議員

【質問を終えて】

執行部の答弁を聞く限り、今の施策では人口目標の達成は困難であるとの認識は持っているようです。

海士町は本町が抱える課題を悉く解決しています。また、現状に満足することなく、今なお、もっともっと前に進むとしています。この熱量には本当に頭の下がる思いです。

総合計画は議員が賛成し可決している以上、私達は全力で目標達成に向けて尽力する責任があります。危機感と緊張感、そして情熱を持って町政に取り組まなくてはなりません。

獣医師確保とペット医療体制の整備について

安心な医療体制を作り 移住者数爆上げだ！

島内に獣医師が存在しない状況は、動物愛護の観点だけでなく、移住促進の観点からも重要な課題と考える。統計的にも、子供よりペットの数が多と言われ、また欧米等では、妊娠・出産のタイミングで犬や猫を家族として迎え入れる文化が根付いており、ペットと共に暮らすことが、子供の情緒面や社会性の発達に良い影響をもたらすという報告もある。

ペット医療の整備で 移住定住促進を！

移住を検討する若い世代や子育て世帯にとって、「島に獣医師がいるかどうか」は、生活の安心度を左右する重要な判断材料だ。ペット医療が確保されていない本町への移住は大きなハードルとなり、本町の移住政策における「生活の安心」の整備が必要では。

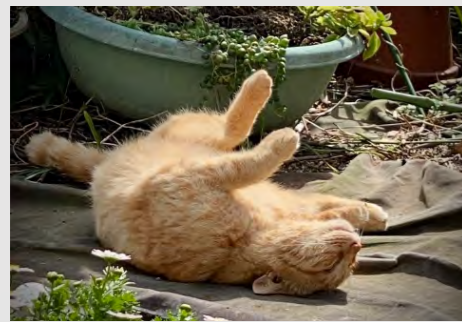
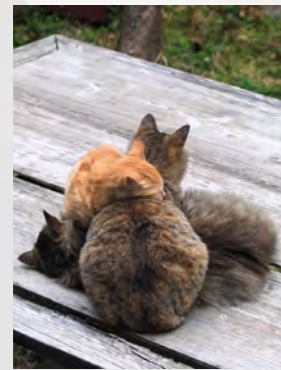
医療・福祉や子育て支援とともに、ペットを飼う世帯の増加を背景にペット医療を含めた日常的な安心体制の整備も、移住地選択の重要指標となると考えている。

動物病院や獣医師の有無が町の「安心・安全」を支える生活インフラの一部として明確に位置付けられると認識している。

ペットの存在が 子ども心を育む！

犬や猫は単なるペットではなく、子供の情緒安定・社会性の発達・責任感の育成・情操教育・健康促進と、多方面にわたり地域に価値をもたらす存在だ。

犬や猫を撫でたり一緒に過ごしたりすると、信頼や安心を形成する、いわゆる「幸せホルモン」が分泌される。このホルモンの働きによって子供の情緒が安定することが、研究で確認されている。そういったことから動物と暮らす子育て世代は確実に増えている。その方々にとっては、獣医師不在の本町は移住先の候補からは真っ先に外される。



その観点から、本町における獣医師の確保は喫緊の課題で、行政として積極的な取組が求められる。獣医師募集の公式ホームページへの掲載はすぐにも取り組むのか。

町が主体的に行う施策であればホームページへの掲載は十分に可能だ。

「ペット獣医師が不在で困っている。自然豊かな小値賀で動物の命を守りませんか？」と掲載するだけなら費用はかからない。町の福祉の充実、暮らしの安心をアピールする意味でもホームページへの掲載は必須ではないか。

承知した。

町公式ホームページで ペット獣医師の募集を

町のホームページに獣医師募集を掲載して個別具体的な福祉の充実に取り組む姿勢をアピールすべきでは。

町のホームページで獣医師募集を公式に掲載することは、情報の透明性や信頼性を高め「町が本気で人材確保に取り組んでいる」という強いメッセージになる。

まずは、関係機関等を通じた獣医師確保に努め、その結果を踏まえホームページや広報誌への掲載を検討していきたい。

【 質問を終えて 】

動物医療の充実が移住・定住施策にもつながる点を訴えました。小値賀町には常設の動物病院がなく、ペットを飼う世帯や移住希望者にとって大きな不安材料となっています。子育て世帯等でペットを迎える人が世界的に増えています。

そこで、月2回程度でも獣医師による巡回診療を実施することで、安心して暮らせる環境づくりにつなげたいと提案しました。人と動物が共に安心して暮らせる町を目指したいと思います。



はしもと たけし
橋本 武士議員

持続的な町政運営実現の人事戦略について

職員一人一人が幸せと 働きがいを感じる職場に！

成長と貢献を実感でき 選ばれる自治体に

問 「対話」によるキャリア形成の支援が重要だ。
以前、職員がやりたい仕事ができずに退職し、島外へ転出したケースがあった。意欲ある若者の島外へ流出は、役場・地域にとって大きな損失で、親族にとってはとても寂しいことだ。

答 最近の調査では新入社員は成長と貢献を仕事に求めていることも示されている。これから選ばれる自治体となるために本気で職員と対話し、成長と貢献を感じることができるよう「キャリア形成」の支援が必要ではないか。

答 新方針では、若手はローテーションで視野を広げ、中堅以降は専門性を重視した配置や、管理職・専門職を選択できる制度を検討する。

「対話」を重視し、個人の希望と組織の方針の丁寧な調整に努める。

前例踏襲から脱却し 魅力ある人事制度を

問 本町では長年、3年程度での人事異動が繰り返されてきた。複雑化する地域課題に対し、職員一人が担う業務の範囲が増えるなか、短期間で担当が変わる体制では知識や継続的な住民との信頼関係構築は困難で、制度の見直しが必要な時期にきている。

答 他自治体では改革が行われているが本町の方針は、行政課題の高度化に対応するため、従来のゼネラリスト育成から、中堅以降は専門性を高める配置へと転換を図る。

課題解決力を高めることで、町民満足度の向上と職員の働きがいの両立につなげる。

職員に寄り添った キャリア形成の支援を

問 職員への異動希望調査はできないか。全員を希望通りに配置するのはまず無理だと思いが、職員の希望と町の意向をすり合わせることで、職員本人が将来設計しやすくなるのでは。

答 その方が職員と町民双方に良いと思うが、人事異動が激しく希望通りは困難なのが現実。ただ不平不満も多いため、一度希望をとってみたい。また現状の人事評価制度には希望調査の項目はないが、キャリア形成に必要なことは計画に盛り込む考えだ。

問 職員の本音や困り事を引き出す面談はできているか。

答 管理職には評価と個人の悩みの両面を聞くように周知している。話してくれる人とそうでない人がいるため、業務外コミュニケーションで聞き出す努力はしている。

人口減少が加速する中、本町が独立した自治体として存続していくために、最も重要な資源は「人」だ。

職員に求められる役割が年々高度化し価値観も変化するなか、従来の人事戦略を抜本的に見直す時期に来ているのでは。

職員が心身ともに健康で、やりがいを持って働ける環境こそが、住民福祉の向上を支え、選ばれる自治体となる。

国の指針・社会の変化に柔軟に対応すべきでは

問 国の「人材育成・確保基本方針策定指針」改定への対応と本町のビジョンは。

答 国の指針改正やデジタル人材の需要を踏まえ、今年度中に本町の計画を策定する。職員と職場の双方が成長し、持続可能な行政サービスを提供できる組織づくりを目指す。

問 海士町では「半官半X」という、今の時代にあった魅力的な雇用制度が始まっている。これにより新たな職員の獲得と、地域課題解決が加速しているが、本町でも検討できないか。

答 業務過多で町民と十分な会話ができていない状況だ。まずはそこを整理して住民サービス向上に努めたい。半官半Xが町の課題解決につながるのであれば検討したい。

【 質問を終えて 】

デジタル技術が日進月歩で進化し、超高齢社会まっただ中、ふるさと納税などの新しい制度への対応、公共施設やインフラが軒並み老朽化していき、気候変動への対応も。課題は増え続け、職員一人の負担も増え続けています。

社会構造や価値意識は変わっているのに、変わらない人事制度、社会規範により職員は着実に疲弊しています。選ばれる自治体になるために、柔軟に変わり続ける必要があります。役場だけでなく、議会も地域も事業者もみんな一緒に。



たていし こうすけ
立石 光助議員

※ここから動画が見られます！

116年の歴史を、未来へ

旧野首教会保存修理工事 竣工

明治41年（1908年）、名工・鉄川與助よすけの設計により、当時の野崎島に住む信徒が私財を投じて建てた旧野首教会。

世界文化遺産の構成資産として、その歴史的価値を次世代へ引き継ぐための大規模な保存修理工事が令和5年度に着工。

シケや台風、猛暑といった困難に見舞われながら、令和7年11月25日、ついに竣工を迎えました。

二次離島での保存工事という難工事を、大きな追加費用や遅延なく完了させた事業関係者の皆様の並々ならぬご尽力に、感謝の念を禁じ得ません。



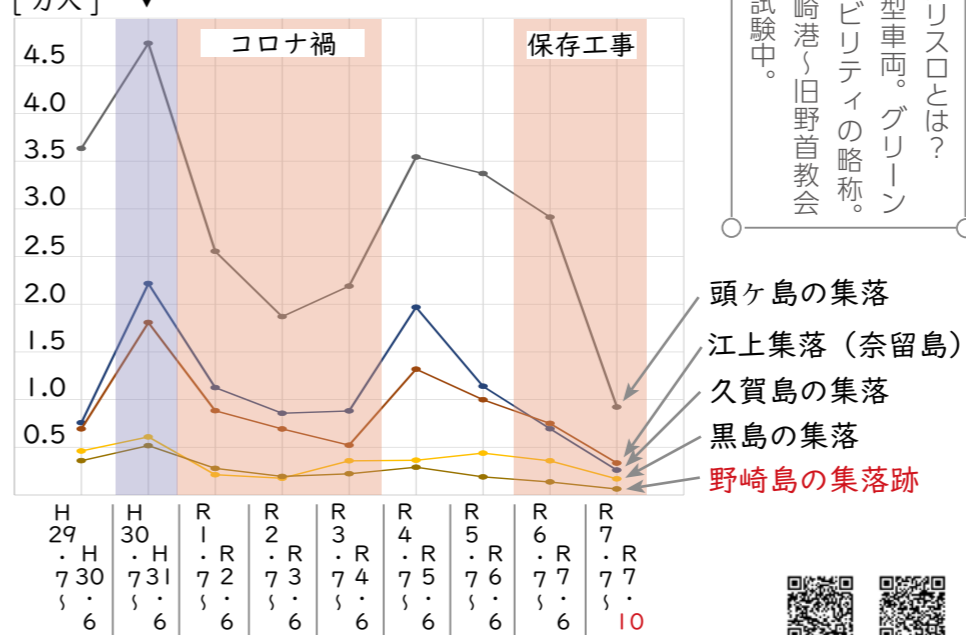
本紙131号、133号で追ってきた本工事に関する特集も、本回で完結です。本回では工事の全体像とともに、議会が注視してきた来訪者数への影響、財政面や今後期待すること等を報告します。

長期間の受入休止は来訪者数には影響小

3か年という長期間の工事のため、野崎島への来訪者数の減少が懸念されていた。その結果を検証するため、県が毎月公表しているデータを確認した（下表）。確かに減少はしているものの、他の離島地域も同様に減少傾向を示しているため、工事による休館が来訪者数に大きく影響したとは読み取りにくい。

一方で、構成資産の中で来訪者が最も少なく、これを増やすことが大きな課題だ。積極的な観光客の誘致や町民への呼びかけ、グリスロ※1導入等、今後の運用に注視したい。

世界遺産構成資産 来訪者推移（離島エリア）



※1 グリスロとは？
電動小型車両。グリーンスローモビリティの略称。現在、野崎港〜旧野首教会間で実証試験中。

工期	総事業費
自 令和5年10月1日 至 令和7年11月25日	2億 8,062万 8,700円
元請	施主

有利な地方債から一般財源に組替え

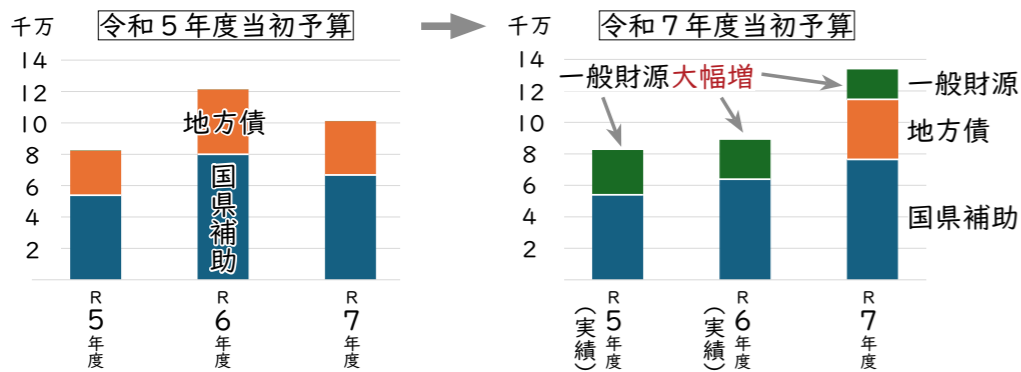
令和5年度当初、町は元利償還金の大部分が交付税措置※2される有利な地方債「辺地債」を約1億円活用する計画だった。

しかし、文化財に対する特別交付税の算定を優先するため、一般財源へ組み替えた。結果として特別交付税は交付されているものの、その性質上、金額の内訳が明示されないため詳細な財源的評価は難しい。

実績としては、令和5・6年度は補助金以外を主に一般財源（現金）で賄い、最終年度の令和7年度に一部起債を適用する形となった。

投資を上回る施策を

厳しい財政状況のなか、当初計画とは異なる財源構成での執行となったが、今後はこの投資を上回るような施策を行っていくことがこれからの課題だ。



竣工記念イベント開催

令和7年12月13日、離島開発総合センターで竣工記念イベントが開かれ、関係者や町民らが完工を祝った。

施工した友建設の加山常務は講演で「自然との闘いだった」「歴史と未来を紡いだ」と難工事を振り返りつつ、熱い想いを語った。



熱い想いを語る加山常務

また、本工事を見事に成し遂げた職人の方々によるパネルディスカッションでは、大工、左官、レンガ、瓦、ガラスなどの舞台裏を知ることができ、大変興味深く感動と学びの多い時間となった。



設計者の司会のもと 職人の方々がそれぞれの苦労や想いを語った

同日午後からは友建設主催の「おぢかこども職人体験工房」が開催された。この企画は、工事に携わった職人の方々から直接その技を教わる内容であった。非常に贅沢な内容であった。参加した子供達の目は輝きに満ちており、この経験が将来何かの行動や思考、意思決定のきっかけとなるだろうと希望を感じた。



本格的な教会模型を子供たちが製作した

特に印象的だったのは、職人の方々も楽しそうに子供達と交流していた点だ。イベントも工事も大成功と言えるのではないかと。

保存修理工事が完了した旧野首教会は小値賀町の誇りであり、世界中から人々を迎える平和と祈りの象徴でもある。また、観光による交流人口の拡大や教育等の核となる活きた遺産だ。

この大きな投資をいかに町の活性化へと繋げていくか。他の文化財の在り方を含め、議会は竣工後の運用・活用についても厳しくチェックしていきます。

※2 交付税措置とは？
特定の事業に対する経費（地方債の返済額に対する財源等）が、将来的に普通交付税や特別交付税として国から間接的に補填されることが保証される制度。



過去の特集記事はこちらから

十一月会議ッ!

令和7年11月7日



ここから動画が見られます



財産（旧家畜市場）の取得は賛成1反対6で否決された

事業実施の環境が整わず 否決 旧家畜市場の活用による肥育事業

産建委員会では 全会一致で否決

委員会報告（要約）

令和7年7月22日に議会に提出され、産業建設常任委員会に付託された「議案第57号 財産の取得について」、すなわち「旧家畜市場の活用による牛の肥育事業」については、様々な課題に対して慎重に審査を進めてきた。その過程において、当初より近隣住民の同意が得られないまま計画が進められていた事実が明らかとなり、委員会として、これは事業の根幹に関わる重大な問題と捉えた。

委員会としてまず執行部に対し、近隣住民の理解と同意を得ることを前提とした解決策の提示を求めた。

しかし、住民の理解と合意形成は得られていない状況だ。本委員会としては、小値賀牛のブランド化や、熱意ある生産者を支援する姿勢には一貫して賛成で、事業そのものに反対するものではない。

しかし、「議案第57号 財産の取得について」すなわち旧家畜市場活用事

業は、現段階での実施は極めて困難であると判断せざるを得ない。本委員会としては、当該議案を可決すべきものとは認められず、全会一致で否決すべきものと結論づけた。
(橋本委員長)

執行部提案に対し 賛成1反対6で否決

反対

【森岡議員】肥育事業には賛成だが、周辺住民に丁寧な説明がされておらず理解を得ていない。町民軽視だ。
【江川議員】肥育事業には賛成だが、町の利益のために誰かを犠牲にすることはあってはならない。

【今田議員】①近隣住民の精神的負担②臭気の問題が未解決③基金条例第一条に規定された土地に該当しない④地方自治法に違反する財政運営上の手続き的な大きな瑕疵。

【立石議員】このまま進めると周辺住民は一生傷ついてしまう。

賛成

【小辻議員】この決定は反対のための反対だ。ダメな判断だ。

新人議員紹介 最終回

議員番号八番

宮崎 良保 議員

「新人議員紹介」から始まり「新人じゃない議員紹介」へと進化(?)した新シリーズも、本号で最終章です。トリをつとめるのは、われらがリーダー宮崎議長です。個性豊かな7人の議員たちを束ね導く、高難易度のミッションをこなす議長は、何を語るのでしょうか。いよいよ最終章はじまります！
昔からよく知っている方もそうでない方も、ぜひ最後まで読んでみてください！



ポーズに時代を感じます

Q 幼少期はどんな子でしたか。

A 唐見崎と言う小さな集落で生まれ、半農半漁で集落みんなで協力しながら生活していました。当時は子どもが50名程度いたため集落に青少年自治会があり、しょっちゅう怒られていました。

Q 議長就任後約3年が経ちますが、今の率直な気持ちには。

A 議長に就いて町民や議員等の意見を聴くなかで、いかに中立を保って対応することが難しいかを改めて実感しています。

Q 座右の銘は。

A 少年よ大志を抱け。
それはお金の為であってはならない。地位や名誉の為でもあってはいけないし、一時の欲求を求めてもいけない。人間が、すべての人間のあるべき姿になるための大志を抱け。

Like this old man (この老人のように)

(ウイリアム・スミス・クラーク)

Q 長年の議員生活で一番うれしかったことは。

A 人生の大半を第一次産業に携わってききましたが、議員になって町民すべての人と話す機会を得たことと、多くの仲間が増えたことに感謝しています。

Q 一番つらかったことは。

A つらかった事や悲しかった事、怒りさえあった人生でした

が、それらに対応する機会を得られたことに感謝し、そしてそれを乗り越えた時は、そのすべてを忘れるほどうれしかったですね。

Q 次期候補者にはどのような人に立候補してほしいですか。
A タカノ目、草の芽を持つ人に立候補してほしいですね。それは是非女性の立候補を願っています。

Q 立候補しやすい雰囲気醸成も大切ですよ。最後に議長として達成したい目標を教えてください。
A 町の安心安全な暮らしを将来においても維持できるように、少しでも貢献できればうれしいですね。

ありがとうございます！

全8回にわたって続いた本シリーズも本回で終了します。次号以降の新企画のご意見やご要望等、ぜひお寄せください。

表紙の写真について

表紙の写真は、令和7年11月26日に小値賀町議会議場において開催された「中学生模擬議会」の様子です。

中学生からお礼の言葉

町長さんをはじめ、役場職員の方々、議会の皆様、改めて、小値賀の皆さんの心温まる優しさに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。皆さんのおかげで私たちは小値賀のことを知り、より良い未来のために考えることができました。今回の模擬議会への取り組みで、私たちが改めて感じたことは、美しい景色、温かい人々、歴史、みんなの思い、どの地域にも負けない魅力がたくさんあることです。

私たちは、4月から夢や希望を求め、それぞれの道を歩きます。小値賀を離れることになるかもしれません。それでも、小値賀は私たちの大切な故郷です。離れても、大人になっても、「小値賀がずっと大好きです。」

これから私たちのふるさと小値賀が、明るく、仲良く、若い人が増えて、お年寄りも安心して住める島でありますように。
(生徒代表 江川ろこ)



「ギカイの窓」

開いています！

ご意見等はこちら→

小値賀町議会公式
SNSも併せてご覧
ください。



Facebook



YouTube



E-MAIL

編集後記

本会議場には緊張感が漂っています。

ざわめきの中、傍聴席には小学6年生や各学校の先生方、多くの保護者が集まり、その時を待っています。

午後2時。

ベルが鳴り響き、一瞬の静寂の後、模擬議会が始まりました。

生徒たちは4つの班に分かれ、自分たちが住む小値賀町をより良くするため調査と検討を重ね、その熱い思いを真剣に訴え、町長の考えを質します。

議場は徐々に活気を帯び、答弁への鋭い再質問を繰り出す姿は実にクールで、彼らが将来の小値賀町を担っていく存在だと頼もしく感じました。彼らの取り組みを目の前で見て、私も町議会議員として町や町民の皆さんのためにこれまで以上に力を尽くそうと新たな決意を持って新年を迎えています。

本年もどうぞよろしくお願
い致します。(今田光弘委員)